



宇宙関連タスクフォース会合・リモートセンシング分科会の報告

2012年11月3日、東京大学本郷キャンパスにおいて「宇宙関連タスクフォース会合・リモートセンシング分科会」が開催され、おおよそ70名ほどの出席者によって今後の宇宙開発体制のあり方に関する議論がなされた。出席者は、産官学から様々な人が集まっていたが、所属機関を代表するという形ではなく、あくまでも個人として報告や発言をする事になっていた。当日は下記のプログラム案に従って進行された。

【プログラム】（発表者の関係で、午前中に日本写真測量学会の方も話した）

- 10:00 はじめに、挨拶
- 10:05 政策委員会での議論
- 10:15 進め方について
- 10:20 質疑応答
- 10:40 官公庁からの意見（内閣府宇宙戦略室、文部科学省）
- 11:05 衛星プロジェクトからの意見
- 11:05 ひまわり、JAXAの衛星について(+GPM, GCOM-W, GOSAT-2, EC)、GCOM-C、ALOS-2/3
- 11:30 利用プログラムからの意見（生態系、気象・気候研究、水循環、防災、環境、その他）
- 12:05 討議
- 12:20 昼食
- 13:20 民間等からの意見
- 13:20 パスコ、三菱電機、ビジョンテック、日本スペースイメーシング
- 13:40 海外動向（GMESなど）
- 13:45 リモセン学会
- 13:55 討議
- 14:20 休憩
- 14:30 宇宙基本計画と日本のあるべき道
- 17:00 閉会

宇宙戦略室のリモートセンシング分野への異論等多数の意見が出て、活発な議論がなされた。それぞれの意見は大変興味深いものであった。しかし、参加者が個人の立場としての発言であったので、この記事の中で具体的に記述する事は避ける。しかし、同年12月5日から内閣府のホームページにおいて「宇宙基本計画（案）」に関する意見募集が12月25日まで行われ、そう遠くない日に11月3日出た意見を含んだパブリックコメントが公開され、それぞれのコメントに対する政府の見解が述べられる。我々、リモートセンシング分野に従事する者としては、パブリックコメントを受けて宇宙基本計画がどのような形になるかを注視する必要がある。（本多）

（パブリックコメント URL：http://www8.cao.go.jp/space/plan/public_comment.html）



(出典JAXA)

内閣府のホームページより

第1回合成開口レーダ（SAR）画像信号処理ワークショップ



図1 ワークショップの参加者と記念写真

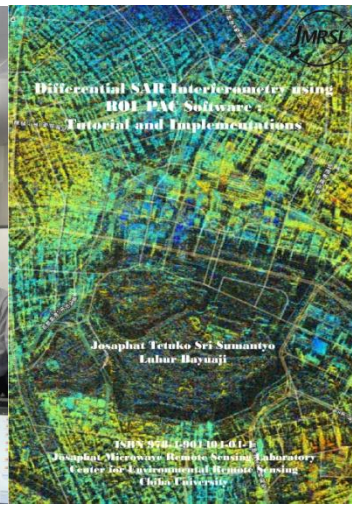


図2 DInSAR 関連書籍の出版

2012年11月27日、千葉大学環境リモートセンシング研究センターのマルチメディアルームにて第1回合成開口レーダ(SAR)画像信号処理ワークショップを開催した。このワークショップには、インドネシア9協定校からの大学院生(29)の他に、マレーシア、イラン、ネパールなどの留学生、国内のリモートセンシング関連会社の社員などが参加した。このワークショップでは、ヨサファット准教授がSARシステムの設計開発から画像の処理である生データから応用まで詳細に説明した。この第1回のワークショップの記念として、微分干渉合成開口レーダ(DInSAR)関連の書籍も出版した。このワークショップの後半に、この書籍を使用して、ALOS PALSAR データを使用して、参加者と一緒に富士山における標高データの試作などを行った。この手法が、詳細な地殻変動の監視、災害被害地域の把握などに活用できると期待した。(ヨサファット)